

教育委員会事務局

令和4年度 重点目標

- 1 「上田市教育支援プラン」の推進
- 2 安全・安心な教育環境の整備
- 3 文化遺産の保存・継承・活用
- 4 生涯学習の推進と学習環境の整備
- 5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備

重点目標	「上田市教育支援プラン」の推進			部局名	教育委員会事務局	優先順位	1
総合計画における位置付け	第5編教育 第1章次代を担う人づくり 第1節教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	教育・子育ての環境・文化の充実を促進する		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
現況・課題	人口減少やグローバル化、人工知能などの技術革新により社会が急速に変化する中、児童生徒が「自ら学び、自ら考え、判断して行動する力」を身につけることが重要です。学校、家庭、地域、関係機関が連携し、いじめや不登校などの未然防止と早期発見・対応を図り、すべての児童生徒が安心して登校し学校生活を送ることができるよう取り組む必要があります。核家族化や少子化の進展などにより子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、子どもの教育に多くの人が携わり「地域の子どもは地域で育てる」地域ぐるみの教育を行うことが必要です。地域の実情や特性に配慮しながら、今後の望ましい教育の方向性としての「小中学校のあり方」の検討を進める必要があります。						
目的・効果	令和3年度からスタートした第3期上田市教育支援プランでは「上田市教育大綱」の基本理念「燦(さん)と輝く上田の未来を紡(つむ)ぐ人づくり」に込められた思いを受け「確かな学力を養う」、「ふるさと「上田」を愛する心を育む」、「未来を切り拓く力を養う」の3つの基本目標を掲げています。変化の激しい予測困難な時代において、児童生徒の学ぶ意欲や生きる力を育み、児童生徒が自ら未来を切り拓くことができるよう様々な施策を推進します。			該当するSDGsの目標			
取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 (いつ・いつまでに)	数値目標（どの水準まで）	中間報告 (目標に対する進捗状況・進捗度)及び (中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点)		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力の育成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 「わかる・できる授業」につなげる授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ① 学力向上委員会の充実 ② 多層指導モデルMIMの活用による「読み」の向上 (2) GIGAスクール構想の推進 <ul style="list-style-type: none"> ① ICTを活用した効果的な授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 4月～3月 (2) 4月～3月 	<ul style="list-style-type: none"> (1) <ul style="list-style-type: none"> ① 自校の授業改善の推進のため、取組や課題を自由討論する場の開催（ユニバーサルデザイン化の視点、ICTを活用した効果的な授業） ② MIMを活用した通常の学級における「読み」の向上 (2) <ul style="list-style-type: none"> ① 教員のICT活用能力の向上のため、教材やアプリの使用法を支援 	<ul style="list-style-type: none"> (1) <ul style="list-style-type: none"> ① 「授業を語る会」第一回開催済（4月） ② MIM担当者による全校訪問の実施。MIMスタート研修7回、モデル授業・研修等62回実施 (2) <ul style="list-style-type: none"> ① ICT支援員を9名派遣し、教職員の授業支援、端末やアプリの活用方法の提案、デジタル教材作成支援等を実施。昨年度開設した1人1台端末活用支援サイト更新。情報教育主任会2回実施。夏季研修会の実施 		<ul style="list-style-type: none"> (1) <ul style="list-style-type: none"> ① 学力向上委員会4回開催、「授業を語る会」3回開催 学力検査の分析に基づく授業改善の推進。他校の教員やファシリテーターとの語り合いによる授業改善に向けた意識の醸成。学校内における取組の拡がり。 ② MIM担当者による学校訪問の実施。MIMスタート研修7回、モデル授業・研修等118回実施。全小中学校におけるMIMの実践 (2) <ul style="list-style-type: none"> ① ICT支援員による教職員への個別フォローアップ研修の実施。情報教育主任会4回実施。県と共同し、ICTによる「対話的で深い学び」をテーマに、県内全域を対象にオンラインによる公開授業を実施 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての子どもに寄り添う支援 <ul style="list-style-type: none"> (1) いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への支援 <ul style="list-style-type: none"> ① 相談体制の整備による支援の強化 (2) 特別な支援を要する児童生徒への支援 <ul style="list-style-type: none"> ① ユニバーサルデザイン化の視点を生かした取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 4月～3月 (2) 4月～3月 	<ul style="list-style-type: none"> (1) <ul style="list-style-type: none"> ① 支援を必要とする児童生徒の早期発見、適切な支援のためのスクリーニング会議を中核にした支援体制を構築 (2) <ul style="list-style-type: none"> ① 授業や学習環境のユニバーサルデザイン化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> (1) <ul style="list-style-type: none"> ① 教育相談所指導主事による全校訪問（不登校・不適応対応体制の確認・支援）を実施。スクールソーシャルワーカーが参加するスクリーニング会議の実施（26校）。スクールソーシャルワーカーによる研修会（教員対象及び教頭会）を開催 (2) <ul style="list-style-type: none"> ① 公開授業を16回実施。取組状況を全小中学校に発信（1回） 		<ul style="list-style-type: none"> (1) <ul style="list-style-type: none"> ① 教育相談所指導主事による全校訪問（不登校・不適応対応体制の確認・支援）を実施。スクールソーシャルワーカーが参加するスクリーニング会議の実施（25校）。支援を必要とする児童生徒の早期把握、早期対応を推進。「不登校児童生徒を支援する民間施設等に関するガイドライン」策定 (2) <ul style="list-style-type: none"> ① 公開授業を33回実施し、取組状況を全小中学校に6回発信。ユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた授業改善、学習しやすい環境の整備、落ち着いた授業を推進 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 豊かな心と健やかな身体の育成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生95.8%、中学校3年生94.7%）の増加 <ul style="list-style-type: none"> ① 給食便り等を活用し朝食摂取に関する情報を家庭に周知 ② 食育キャンペーンへの参加（健康こども未来部連携） (2) 児童生徒の「食に関する実態調査」の実施と健康状態、実態の分析 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 4月～3月 (2) 4月～3月 	<ul style="list-style-type: none"> (1) <ul style="list-style-type: none"> ① 年4回 ② 年1回 (2) <ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒の食に関する実態調査 ② 学校保健統計、生活習慣病予防検診の結果の経年分析及び課題設定 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 広報8月号に学校給食の特徴を紹介。 <ul style="list-style-type: none"> ① 各施設で1～3回実施。 ② アリオ食育キャンペーン（7月29日）参加 (2) <ul style="list-style-type: none"> ① 6～7月に全校で実施。調査分析は後期に実施予定 ② 学校保健統計は後期に経年集計及び分析を予定。生活習慣病予防検診結果は令和元年度から3年度までの経年集計及び分析を実施し、結果を4月に全校に配布 		<ul style="list-style-type: none"> (1) 朝食摂取率 小6：95.8%（現状維持）中3：93.6%（微減） <ul style="list-style-type: none"> ① 全施設で年4～10回給食だよりに掲載。学校給食の取組を「広報うえだ8月号」及び市ホームページに掲載 ② アリオ食育キャンペーン（7月29日）参加 (2) <ul style="list-style-type: none"> ① 6～7月に全校で実施、暫定値を分析中 ② 学校保健統計は男女ともに肥満傾向児の増加、女子は中学生に痩身傾向児が増加。生活習慣病予防検診結果は脂質異常の児童生徒の増加が判明。集計結果を初めて全小中学校に報告 	

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを 行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
4	○ 学校給食施設の計画的な整備 （1）第二学校給食センター改築事業の着実な実施 （2）改築後の第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応の検討及び関係者への周知	（1）4月～3月 （2）4月～3月	（1）建設工事の着実な実施及び厨房機器・食器・食缶の購入契約の締結 （2）第二学校給食センターとしての対応指針（案）の作成、アレルギー対応に関する講演会の開催	（1）各施工者と定期的に打合せを行い、進捗状況を確認すると共に情報共有を図りながら工事を実施。また、9月に固定式厨房機器の購入契約を締結 （2）対応指針作成に向け、情報収集を実施。また、広報紙で学校給食の食物アレルギー対応策と10月開催の講演会を周知	（1）厨房機器業者との購入契約を締結。建設工事は、作業員不足やコロナ感染、豪雨等による工期の遅延のため、工期を延長し、施設稼働時期を令和5年度2学期から3学期に変更 （2）市内児童生徒の食物アレルギーの状況を広報うだに掲載したほか、アレルギーの専門医を講師に講演会を開催（約100人参加）
5	○ 小中学校のあり方の検討 （1）上田市小中学校のあり方に関する基本方針に基づく学校のあり方の検討	（1）4月～3月	（1）基本方針に関する地域ごとの説明会開催及び地域ごとの検討	（1）丸子中学校区で説明会を実施。また、小規模化の著しい西内小学校を対象に保護者等との懇談を行い、協議した結果、令和6年4月の丸子中央小学校との統合を教育委員会として決定	（1）基本方針に関する説明会を4中学校区を対象に開催。参加者と児童生徒数の現状と今後の予測について情報共有し、子どもたちのより良い教育環境の確保に関する意見交換を実施（第二、第三、第四、丸子）
特 記 事 項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題	
	○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点				

重点目標	安全・安心な教育環境の整備			部局名	教育委員会事務局	優先順位	2
総合計画における位置付け	第5編 教育【生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり】 第1章 次代を担う人づくり 第1節 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	教育・子育ての環境・文化の充実を促進する		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 エ 公共施設マネジメントの推進						
現況・課題	少子化が進行する中、多様な学習内容・学習形態に対応するとともに、将来にわたり持続可能な小中学校の施設整備を進める必要があります。人口増加がピークであった昭和40年代・50年代に建てられた学校施設が今後耐用年数を迎えるに当たり、将来の人口減を見据える中で、計画的な施設配置・施設規模を検討する必要があります。						
目的・効果	現在の学校施設配置を続けた場合、人口減少による小規模校(過小規模校)化や空き教室の増加等により、非効率的な施設の維持管理を余儀なくされ、財政を圧迫する一因となります。学校施設の再配置も視野に入れながら、児童・生徒にとって必要な学習環境を確保しつつ、施設の維持管理経費の抑制を図ります。				該当するSDGsの目標		
	取組項目及び方法・手段(何をどのように)	期間・期限(いつ・いつまでに)	数値目標(どの水準まで)	中間報告(目標に対する進捗状況・進捗度)及び(中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点)	期末報告(目標に対する達成状況・達成度)		
1	○ 第五中学校改築事業(国庫補助事業) (1) 校舎棟の実施設計業務 (2) 仮設校舎、仮設剣道場の建設 (3) 校舎棟建設に必要な解体工事	令和5年3月	(1) 校舎棟の実施設計完了 (2) 仮設校舎、仮設剣道場建設 (3) 解体工事(第三棟、部室棟)実施	(1) 学校と設計業者とともに詳細を詰めながら概ね順調に設計を進行中 (2) 施工業者が決定し、学校と工程を確認しながら概ね予定通り実施中 (3) 令和5年1月から解体工事(第三棟、部室棟)に着手できるよう入札を行い、業者が決定し次第実施	(1) 校舎棟建設のための実施設計完了 (2) 仮設校舎及び仮設剣道場建設完了 (3) 解体工事(第三棟、部室棟、屋内運動場)に着手し、令和5年7月末完了に向け施工中		
2	○ 中学校屋内運動場照明LED化事業(国庫補助事業) 真田中学校の屋内運動場照明のLED改修工事を実施	令和5年3月	屋内運動場の照明をLEDに改修	業者が決定し、学校と工事工程を確認しながら年度内に改修が完了するよう実施	真田中学校屋内運動場の照明器具LED改修工事完了		
3	○ 学校施設の適正な営繕の実施 各学校からの営繕要望に対し、営繕実施の可否について判断の上、経費圧縮に努めながら、迅速かつ適切な事業の推進	年度内	営繕が必要な主要箇所について、概ね年内(12月)に発注を完了	年度当初、予定していなかった小学校プールろ過機の不具合による更新工事や中学校放送設備の修繕などにより、小学校費及び中学校費において増額補正 また、7月末の大雨による小学校4校、中学校2校の災害で復旧工事を実施 その他、学校からの営繕要望に対し、予算の範囲内で順調に対応 ・発注件数(9月末現在) 小学校 60件 中学校 7件	学校からの営繕要望に対し修繕及び営繕工事について、限られた予算の範囲内で効率よく実施した。(令和5年3月末現在:小学校113件・執行率100%、中学校37件・執行率98%) 使用不可となった塩川小学校のプールろ過機について補正予算において改修を実施した。		
4							
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題			
	○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点						

重点目標	文化遺産の保存・継承・活用		部局名	教育委員会事務局	優先順位	3	
総合計画における位置付け	第6編 文化・交流・連携 1611 第1節 文化遺産の継承と活用		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	教育・子育ての環境・文化の充実を促進する			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
現況・課題	地域の歴史と文化を次世代に継承していくために、文化財への関心を高めるとともに、保存と活用を推進してその価値を高め、より魅力あるものにしていく取組が求められています。また、文化財保護法の改正に伴い、新たに策定した「上田市文化財保存活用地域計画」を文化財所有者や知己住民に周知し、計画実現に向けて着手することが必要です。						
目的・効果	平成30年度に文化財のマスタープランとして策定した「上田市歴史文化基本構想」をもとに、具体的な行動計画となる「上田市文化財保存活用地域計画」を策定し、文化庁の認定に向けて協議を進めます。また、史跡や建造物等の保存とともに積極的な公開や活用を推進します。さらに、子どもたちや市民に向けて上田の歴史や先人・偉人の業績を紹介することにより、郷土に対する理解を深め、誇りや愛着を醸成するよう努めます。			該当するSDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
1	○ 「上田市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取組 (1) 文化庁協議 (2) 住民説明会の開催	(1) 4月～6月 (2) 9月～3月	(1) 計画認定に向けた文化庁との協議 (2) 文化庁認定後に冊子を印刷、関係者等に配布するとともに、市民向けの説明会を開催	(1) 4月以降、文化庁との協議や修正指示への対応を行い、7月22日に計画認定 (2) 計画書の冊子及び概要版の印刷に向けて発注準備中	(1) 7月 文化庁長官による計画認定 (2) 12月 計画書の冊子及び概要版を印刷 2～3月 関係者への配布、地域協議会（5地域）において説明		
2	○ 文化財の保存と活用 (1) 文化財の指定・登録の推進 (2) 文化財の積極的な活用 ① 文化財de文化祭の開催 ② 日本遺産の活用	(1) 5月～3月 (2) ①9月・11月 ②4月～3月	(1) 文化財の市指定・国登録の推進（2件以上） (2) ① 文化財de文化祭の実施（2回） ② 日本遺産文化財活用部会（ガイド育成講座・補充調査）	(1) 新規登録に向け、佐藤住宅本家の蚕室などの調査を実施中 (2) ① 東山古墳群（7月16日）、安楽寺（10月9日）において開催（2回） ② 日本遺産ガイド育成講座を6～7月に3回開催。ため池に関する補充調査を実施中	(1) 登録申請に向けて、佐藤住宅本家、前山寺など6件について調査・準備を実施中 (2) ① 7月東山古墳群、10月安楽寺において開催（2回、延べ168人参加） ② 6～7月・日本遺産ガイド育成講座は初級編受講者を対象とした中級編を開催（14人参加） ため池に関する補充調査を実施		
3	○ 史跡上田城跡整備事業の推進 (1) 「史跡上田城跡保存活用計画」の策定 (2) 武者溜り整備事業（旧市民会館解体工事）の推進 (3) 櫓の復元的整備に向けた調査検討	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) 年度内の策定完了、文化庁認定 (2) 発掘調査、旧市民会館アスベスト含有調査、武者溜り基本計画測量、費用対効果分析業務の実施 (3) 史跡上田城跡整備専門家会議を開催（3回以上）	(1) 6月にコンサルと委託契約締結し、計画本文を策定中 (2) 11月の発掘調査開始に向け準備中。武者溜り基本計画策定・費用対効果分析業務を8月に委託契約し実施中 アスベスト含有調査は令和5年度実施に変更 (3) 9月27日に1回会議をオンラインにより開催	(1) 策定委員会や文化庁協議を経て認定に向けた計画案を策定 文化庁手続きは、令和5年度に実施 (2) 11～12月、3月 発掘調査を実施 武者溜り基本計画策定・費用対効果分析業務を実施中（令和5年度まで継続予定） (3) 9月、12月、3月に会議を開催（3回）		
4	○ 郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出 (1) 郷土ゆかりの先人・偉人の顕彰事業 (2) 郷土の歴史、文化、人物等をテーマとした展覧会や講座等の開催 (3) 発掘した文化財等の活用	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) 「信州上田ふるさと先人館」の特別展示を企画 (2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館における企画展の開催（6回）、体験教室、講座等の開催（15回以上） (3) クジラ類化石の展示	(1) 6月に赤松小三郎の特別展示を開催。3～8月公文書館で出張展示。「出張どこでも先人館」実施（4回）に向け準備中 (2) 市立博物館：企画展（2回）、各種講座（5回）を開催 信濃国分寺資料館：企画展（1回）、体験教室、講座（2回）を開催 (3) クリーニング作業中における情報発信、展示方法等について検討中	(1) 6月 赤松小三郎の特別展示を開催 4月～2月「出張どこでも先人館」（6回）を実施 (2) 市立博物館：企画展（3回）、各種講座（10回）を開催 信濃国分寺資料館：企画展（2回）、体験教室（1回）、講座（3回）を開催 (3) クリーニング作業を進めるとともに、3月19日に市民向け発掘調査の状況報告会・講演会を開催		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題			
事項	○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点						

重点目標	生涯学習の推進と学習環境の整備	部局名	教育委員会事務局	優先順位	4
総合計画における 位置付け	第5編 教育 第1章 次代を担う人づくり 第1節 教育環境の整備と地域ぐるみの教育 第2章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備 第1節 生涯学習の推進と学習環境の整備 第1編 自治・協働・行政 第2章 すべての人の人権が尊重されるまちづくり 第1節 一人ひとりの人権が尊重される社会の実現	上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	教育・子育ての環境・文化の充実を促進する		

第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け

現況・課題
 全小中学校でコミュニティスクールの取組が行われていますが、今後は学校の実情や地域の特徴を生かしながら地域と学校が連携・協働していく取組が継続したものとなるよう、持続可能な体制を整備していく必要があります。コーディネーターや地域で学校を支えていただいているボランティアの人数が徐々に増えてきています。今後は、学校と地域の交流を深め、学校支援ボランティアの充実を図り、地域ぐるみで学校を支えていく「仕組みづくり」が重要となります。人権同和教育においては、平成25年2月に同和問題に関わる差別事象が発生し、その後も相談案件が生じていることから、今後、このような差別が起きないように人権同和教育と啓発を推進していく必要があります。「人生100年時代」に対応し、シニア層の学びの拡充を図るとともに、実体験の不足しがちな子どもたちのため地域の資源（自然、歴史、人等）を生かし自然体験・社会体験の機会を提供します。また、上田市から始まり県内外に影響を及ぼした児童自由画教育運動、農民美術運動及び上田自由大学運動創始から約100年になることを記念し、社会教育機関である公民館、図書館及び博物館が連携し、3つの社会教育運動の意義を顕彰し、周知・発信することにより市民の自発的な学習活動を促進する機会にすることが必要です。

目的・効果
 豊かな生涯学習社会の実現を目指し、平成27年度に策定した「第二次上田市生涯学習基本構想」に基づき、生涯学習の機会や施設整備をはじめとする生涯学習環境の充実を図るとともに、地域とともにある学校づくりの取組を通じ、学校の負担を軽減し、地域ぐるみで子どもたちを育てていきます。「上田市人権施策基本方針」に基づき、学校、地域等における人権同和教育と啓発を通じ、すべての人の人権が尊重される社会の実現を目指します。公民館事業の充実、高齢者の学びの拡充及び上田自由大学運動等の顕彰・周知により、地域の教育力の向上、市民の自発的な学習活動の促進が期待されます。

該当するSDGsの目標



	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
1	○ 上田自由大学運動等の顕彰による生涯学習推進 自主的・主体的な活動を学ぶ (1) 創設100周年記念シンポジウムアフター大会の開催	(1) 4月～3月	(1) 創設100周年記念シンポジウムアフター大会の開催（実行委員10人・参加者50人）	(1) 市民団体と連携し「自由大学100周年記念フォーラム」として実施中。事前学習会（8月27日、9月24日、10月15日）に延べ64人が参加し、フォーラム（11月13日）に向け自由大学の学びを深化	(1) ①市民団体と連携し11月13日に「自由大学100周年記念フォーラム」を開催（実行委員13人、参加者延べ157人(事前学習会3回含む)） ②「上田自由大学」をわかりやすく紹介する小冊子を作成し配布（2,000部）
2	○ 地域とともにある学校づくりの充実 (1) 地域ぐるみで学校を支えていく「仕組み作り」の推進と地域における交流・情報交換の支援 (2) 学校支援ボランティア活動の推進のため活動を紹介	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 新規コーディネーター基礎研修会、情報交換会の開催（各1回） (2) 学校支援ボランティアの活動紹介を紙媒体やHPを活用し周知	(1) 基礎研修は新型コロナウイルス感染予防のため個別に実施。交流・情報交流会開催に向け、学校支援コーディネーターに現場での課題等アンケート調査を実施 (2) 特色ある学校支援活動として、第二中学校のキャリア・生きた方学習をホームページで紹介。各地域のコーディネーターから情報収集し、随時紹介予定	(1) 市内小中学校のコーディネーター及び公民館社会教育指導員等の参加による「学校支援コーディネーター情報交換会」（1月25日）を開催（参加者24人） (2) 3校の学校支援の取組をホームページで紹介「学校支援ボランティア・コミュニティルーム」を紹介する冊子を作成し配布（5,000部）
3	○ 人権同和教育・啓発の推進 (1) 「上田市人権施策基本方針」に基づく人権同和教育・啓発の推進 (2) 人権尊重の精神が日常的に発揮できる講演会・研修会等の事業の実施	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 学校、家庭、地域、企業における人権同和教育・啓発の推進 (2) 各種人権啓発推進団体が行う市民の人権意識向上のための事業の実施（講演会・研修会の開催4回）	(1) 家庭、地域、企業、各小中学校において様々な機会を捉え人権同和教育・啓発 (2) 6月9日 企業人権教育連絡会定期総会にて講演会を実施。10月13日 人権を考える市民のつどい、12月3日 人権啓発担当者研修会、2月25日 人権フェスティバル等の準備	(1) 中学校区ごとにブロック研修会開催、自治会で懇談会・啓発資料の回覧・配付・掲示等実施 (2) 10月13日 人権を考える市民のつどい開催（約800人参加）、12月3日 人権啓発担当者研修会は中止（代わりに資料送付）、2月25日 人権フェスティバルを開催（延べ456人参加）
4	○ 青少年の健やかな成長を支援する取組の充実 (1) 生きる力を育む自然体験活動、集団遊び・集団生活の機会提供 (2) 社会変化に対応した健全育成を支える環境づくり (3) 地域における若者の居場所づくりの調査・研究	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) 幼児期の子どもを主な対象とした地域の自然体験事業の実施（3回） 小中高大の青少年の異年齢交流と自然体験活動（3回） 体験活動補助金交付（50育成会） (2) インターネット・スマホ適正利用啓発リーフレット発行20,000部 (3) 研修会（市内の居場所づくり事業等）の参加	(1) 「グングンからだ遊び（市民の森）」野外遊びを実施（6月5日 幼児・小学生14人、計24人）、「のびのび川遊び体験教室（浦野川）」カヤック体験と水生生物観察を実施（7月9日 幼児・小学生31人、計43人） 体験活動補助金交付（21育成会） (2) 県「スマホ、タブレット、ゲーム機等に関するアンケート」の分析作業を行い、啓発リーフレット作成 (3) 市内の子ども食堂を訪問、高校生ボランティアと懇談	(1) 「グングンからだ遊び（市民の森）」（6月5日 幼児・小学生14人 計24人） 「のびのび川遊び体験教室（浦野川）」（7月9日 幼児・小学生31人 計43人） 「のびのび秋のアウトドア遊び体験」（10月22日 幼児・小学生31人 計52人） 「親子でグングン山さんぼ（烏帽子岳）」（11月6日 小学生11人 計21人） 「冬の自然体験教室（菅平高原）」（2月18日 幼児・小学生9人 計17人） 「親子でグングン焼き火クッキング」（3月11日 幼児・小学生12人 計21人） 体験活動補助金交付（20育成会） (2) 県「スマホ、タブレット、ゲーム機等に関するアンケート」の分析作業を行い、啓発リーフレット作成し配布（19,000部） (3) 市内の子ども食堂を訪問、高校生ボランティアと懇談 市民団体が運営する子どもの居場所を見学

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを 行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
5	○ 公民館事業の充実 （1）新しい生活様式に対応した学びの機会の提供 （2）各分館に対する応援体制の強化 （3）公民館事業の情報発信力の更なる向上	（1）4月～3月 （2）4月～3月 （3）4月～3月	（1）市民向けオンライン講座等の開催 （2）各分館に対する情報提供、及び相談窓口の開設 （3）公民館情報の発信強化に向けた研修会（2回）、Facebook担当者情報交換会（1回）、Facebookのスキル向上に向けた研修会（1回）の開催	（1）新型コロナの影響により参集形式で実施できなかった公民館講座等をオンライン形式により実施（26回） （2）新型コロナ禍における分館活動等に関し相談窓口を設置し、助言や情報提供を実施。（353件） （3）公民館報づくりの研修会に参加（1回）するとともに、館長会や主事会において情報発信に関する意見交換を実施	（1）新型コロナの感染拡大状況を踏まえ、参集形式の公民館講座等をオンライン形式により実施（35回） （2）分館活動を支援するために、分館活動の手引きを作成し、各分館に配布するとともに、分館活動に関する相談窓口を設置し、事業に対する助言や情報提供等を実施（692件） （3）公民館情報の発信強化に向けて、職員のスキル向上を図るために、公民館報づくりや広報活動に関する研修に参加（2回）するとともに、主事会においてFacebookに関する職員研修会を開催（1回）。また、館長会や主事会において、情報発信に関する意見交換を随時実施
6	○ 図書館サービスの充実 （1）電子図書サービス導入 （2）中高生向けサービスの充実 （3）職員の資質向上	（1）4月～3月 （2）4月～3月 （3）4月～3月	（1）県と市町村が協働して進める電子図書館への参加並びに運用方法の決定。 （2）図書館利用が減少する中学生・高校生等を対象とし、おすすめ本の紹介や各種コーナーの設置等サービスを充実 （3）県立長野図書館等が開催する各種研修会への参加と職員間の情報の共有	（1）市町村と県による協働電子図書館事業に参加。各館での受付事務や広報等の事前準備を行い、8月5日に事業をスタート 上田市の利用登録者数：693人（10月5日現在） （2）各図書館において、中高生を対象としたYA（ヤングアダルト）コーナーを設置し、小説をはじめ趣味の本、進路に関する本など様々なおすすめ本を紹介 （3）県立長野図書館等の研修会へ参加し、職員間で研修結果を共有	（1）市町村と県による協働電子図書館事業（デジとしょ信州）に参加。8月5日に事業をスタート 上田市の利用登録者数：883人、貸出件数：4,534件 （2）各図書館において、中高生を対象としたYA（ヤングアダルト）コーナーを設置し、小説をはじめ趣味の本、進路に関する本など様々なおすすめ本を紹介 上田地域の7つの高校にYAコーナー及びデジとしょ信州のポスターを提示し、事業を周知 （3）各種研修会への参加後、研修結果を職員間で共有 研修会15回、延べ120人
特 記 事 項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題	
	○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点				

令和4年度 重点目標管理シート

重点目標		生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		部局名	教育委員会事務局	優先順位	5
総合計画における位置付け		第5編 教育 第2章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備 第2節 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け		教育・子育ての環境・文化の充実を促進する	
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		スポーツ施設整備を進めるにあたり、公共施設マネジメント基本方針と整合を図る。					
現況・課題		<ul style="list-style-type: none"> ライフスタイルが変化し、健康づくりへの関心が高まる中、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もがいつまでも気軽にスポーツに親しめるまちづくりを進めていく必要があります。 多様なスポーツ・レクリエーションや競技スポーツ振興を図るため、「上田市スポーツ施設整備計画」に基づき、計画的な施設整備を進める必要があります。 高地トレーニング・スポーツ合宿の適地として、普平高原を内外に積極的にPRし、ブランド力を強化させるとともに、各種大会などを誘致することにより、交流人口を増加させることが重要です。 上田市から世界の舞台や国内の大規模大会等で活躍する選手が育つことを視野に入れ、優れた競技者を発掘し、応援する体制づくりが重要です。 					
目的・効果		「第二次上田市スポーツ推進計画」に基づき、体力向上や健康づくりの機会を拡大するとともにスポーツ環境の整備を促進し、生涯スポーツ社会の実現を目指します。		該当するSDGsの目標		     	
取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
① 生涯スポーツの振興、スポーツを通じた地域づくりと交流拡大 (1) だれもがスポーツに親しむ機会の充実 (2) 障がい者スポーツの推進 (3) トップアスリートとふれあう機会の充実 (4) 総合型地域スポーツクラブの活動促進		令和4年度中	(1) 各種スポーツ大会等【20回】 教室【30教室】 (2) 「あすチャレ!」【2校】 (3) 「夢の教室」事業【7校】 ・ブリリアントアリーズとの連携事業【随時】 (4) 総合型地域スポーツクラブ連携事業【10回】	(1) 市民総合体育大会、信州爆水Run in 依田川、シルバースポーツ大会等【11回】、教室【38教室】 (2) 「あすチャレ!」【10月1校 11月3校予定】 (3) 「夢の教室」事業【4校】 ・スポーツ少年団合同バレーボール教室 8/13 (4) アリオモールウォーキング【6回】、健幸フェア【1回】 親子スポーツフェア【1回】	(1) 市総体、爆水Run、古戦場ハーフマラソン、ともしびの里駅伝、シルバースポーツ大会、シニアテニス大会等【22回】、教室【39教室】 (2) 「あすチャレ!」【4校】 (3) 「夢の教室」事業【6校】 ・ホームコート開催広報、上田市PR動画・応援グッズ製作、古戦場ハーフマラソン参加 (4) アリオモールウォーキング【12回】、健幸フェア【1回】、親子スポーツフェア【1回】		
② 上田市スポーツ施設整備計画に基づく施設整備の推進 (1) 新テニスコート整備基本構想に基づく用地造成工事、クラブハウス設計 (2) 新体育館の整備に向けた検討 (3) 老朽化したスケート場のあり方に関する検討 (4) スケートボード場など、新しい施設整備ニーズへの対応		令和4年度中	(1) 造成工事着手、設計完了 (2) 教育委員会としての方向性を協議 (3) 関係者と協議 (4) 利用者との協議の場を設定 先進事例の研究	(1) 6月議会の議決を受け工事に着手。クラブハウス設計については、競技団体との意見交換を行い、11月発注予定 (2) 西部地域市政懇談会において、地域の指定避難場所となっている城跡体育館の整備方針について、市の現状を説明 (3) 令和5年度をもって廃止する方針であることを、全地域協議会に報告。地元である豊殿まちづくり協議会とも協議済 (4) スケボー利用者の意見を参考に、古戦場公園内の使用されていない駐車場をスケボー広場として開放	(1) 用地造成工事に着手、クラブハウス設計を完了 (2) 西部地域市政懇談会において市の現状を説明 庁内協議に向け、課内での検討会議を実施 (3) 令和5年度をもって廃止する方針であることを、全地域協議会に報告。地元である豊殿まちづくり協議会と協議 スケート場廃止後のスケート教室について、全小学校に意向調査 (4) スケボー利用者の意見を参考に、古戦場公園内の使用されていない駐車場をスケボー広場として開放		
③ 国民スポーツ大会を見据えた環境づくり (1) 競技力の向上と機運の醸成 (2) 会場予定地の中央競技団体視察受入		令和4年度中	(1) <ul style="list-style-type: none"> （一財）上田市スポーツ協会を通じた選手及び指導者の強化体制への支援【随時】 全国大会等出場奨励金の交付【30件】 信州チャレンジスポーツDAY【1回】 (2) 市内4競技会場の視察受入	(1) <ul style="list-style-type: none"> 競技力向上対策事業補助【13団体】（うち2巡目長野国スポに向けた事業6団体） 全国大会等出場奨励金の交付【26件】 体験会を年内実施予定 (2) ラグビーフットボール競技 7月 ・軟式野球競技 11月（予定） ・ハンドボール競技 1月（予定） ・ソフトテニス競技 1月（予定）	(1) <ul style="list-style-type: none"> 競技力向上対策事業補助【12団体】（うち2巡目長野国スポに向けた事業5団体） 全国大会等出場奨励金の交付【41件】 スポーツ協会開催の親子体験会を支援 11/19 12/4（野球、陸上、サッカー、バドミントン、バレーボール） (2) <ul style="list-style-type: none"> ラグビーフットボール競技 7/12 軟式野球競技 11/15 ハンドボール競技 1/17 ソフトテニス競技 1/23 		
事項		○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			
留意		○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点					